



クローズアップ！期待のSTARTUP!!

取材

スタートアップ支援クロスファンクショナルチームでは、スタートアップ企業の成長を支援するため、資金調達・協業を目的としたピッチ会・交流会の開催やマッチング支援等による伴走支援を行っています。本コーナーでは、先端的な取組をされるスタートアップ企業を紹介します。

AIロボとの会話を通してメンタルのセルフケアをするアプリ「emol」を展開

emol株式会社
<https://emol.jp>



「誰かに相談したいけれど、話せない」人が、安心できる場所を作りたい、との思いが出发点



代表取締役COO 武川 大輝 氏

当社は、AIロボとチャットで会話することを通して、メンタルのセルフケアを行うアプリ「emol」の開発・運営を行っています。創業のきっかけとなったのは、当社のCEOである千頭沙織自身の、「誰かに相談したいけれど、話せない」という体験です。キャラクターロボットのような仮定の相談相手であれば、相手から批判されることも相手に気を遣うこともなく話すことができるのではないかと考え、2019(平成31)年の創業に先駆けて、2018(平成30)年に「emol」のベータ版を公開しました。

ベータ版は、「うれしい」「いらいら」など9つの感情からユーザーのその時々感情を選んで記録する機能、AIロボの「ロク」とチャットで会話をする機能、1週間単位で感情の記録を振り返ることができる機能を搭載したものです。その後、2020(令和2)年に早稲田大学との共同研究をスタートし、医師やカウンセラーが用いる認知行動療法のプロセスに基づいて、AIロボのサポートによりセルフケアを実施するデジタルプログラムを開発。同プログラムを無料(一部有料)で提供する正式版を、2020(令和2)年12月にリリースしました。

「emol」の最大の強みは、使い勝手のよさとメンタルヘルス不調の予防効果を両立させている点にあります。予防効果については大学との共同研究で検証を進めており、2021(令和3)年に自治体の協力のもと、臨床心理の分野で認められた心理測定尺度による実証実験を行った結果、抑うつや不安の軽減を確認することができました。

27万ダウンロードを突破。さらなる改善により国内ナンバーワンのサービスを目指す

在宅勤務等の影響でメンタルヘルス問題が浮き彫りとなったコロナ禍において、全世代を対象としたあるアンケートでは、82%もの人が「メンタルヘルスのサポートを人よりもロボットに頼りたい」と回答しました。そうした中、「emol」は小学生を含む10~30代を中心に利用者数が伸び、iOS版のみのオーガニック件数(広告ソース等を利用しない件数)で、約27万ダウンロードを超えています。今後はメインターゲット層の継続利用が増えるよう改善に力を注ぐとともに、企業の従業員向けや、自治体と連携して妊産婦向けにも対象を広げる予定です。



基本使用料無料のAIメンタルヘルスセルフケアアプリ「emol」

京都産業21からは、さまざまな形で支援をいただいています。令和3年度「産学公の森」推進事業に採択いただき、企業向けサービス開発を推進。また、第2回スタートアップ支援「エンジェルコミュニティ」交流会での登壇を機に2社からお声がかかり、導入を検討いただいているところです。

今後の展望は、利用者数とケア効果の両面において、日本でトップのメンタルヘルスサービスへと成長を遂げること。市場の開拓・拡大をもって、日本におけるメンタルヘルスケアに対するネガティブなイメージを払拭し、誰でも気軽にメンタルのセルフケアができる当たり前のものとして定着させたいと考えています。



ムービーやオーディオなど大きく5つのコンテンツが用意されたセルフケアプログラム

Company Data

- 代表取締役CEO/千頭 沙織
- 所在地/京都市下京区中堂寺南町134 ASTEM棟 7F
- E-mail/support@emol.jp
- 設立/2019(平成31)年3月
- 事業内容/メンタルヘルス関連サービス開発

京都産業21のスタートアップ支援情報はコチラ
<https://www.ki21.jp/kkc/service/startup/>

